iPG interactive Program Guide

G PRESS

2007. October / Vol.54

© 2007 Interactive Program Guide Inc. all rights reserved

genius
今月のGな人

株式会社ワイヤーアクション
代表取締役
林 和宏さん

『放映ログ』が、テレビをもう一度面白くする。

「今見ているドラマの主人公が着ているワンピース、どこで売っているんだろう？」「いまテレビで流れているこの曲、何ていう曲？」…そんな視聴者の欲求に応えることができたら、テレビはもっと面白くなるにちがいない。テレビ視聴をもっと盛り上げるために、すでに放映された情報（『放映ログ情報』）を上手に活用することはできないだろうか。そう考え、インターネットによる新しい視聴者コンテンツサービスを展開している会社がある。株式会社ワイヤーアクション。社員全員テレビが大好きな若者たちの活気に満ちている同社の代表取締役・林和宏さんに、お話をうかがってみました。

―いま業界では「テレビ離れ」ということが問題になっています。テレビの前に座っている時間が以前よりも少なくなった、と。そういう時代に、あえて「テレビ番組」周りの仕事をしようと起業なされた意図は何ですか?

まさに、その「テレビ離れ」を何とかしたいという思いから、今の仕事を進めていく決意をしました。「テレビ離れ」ということが確かに言われていますが、それは単にテレビを見る時間が減ったという一面的な現象のことに過ぎず、「テレビが面白くなくなった」「テレビの影響力がなくなった」わけでは決してないと思っています。テレビ番組、特に日本のテレビ番組は、クオリティが高く、影響力も絶大なものがあります。前々号（vol.52）のこのGプレスでSo-netの会田様もおっしゃっていましたが、インターネットで検索される内容の上位は、ほとんどテレビでとり上げられた話題です。つまり、視聴者は、「インターネットに行ってしまったからテレビを見なくなった」わけではなく、「テレビを見て、そこで“面白い！もっと知りたい！”と思ったことをインターネットで見てみる」という行動様式になっているということです。

Wireaction

―だから、『放映ログ情報』というものに着目したビジネスを始めたわけですね。

そうです。「今流れている曲、何ていう曲？」という問いに答えてあげることができれば、テレビがもっと面白くなる、その結果としてテレビ視聴が促進され、「テレビ離れ」などということは問題にされなくなるのではないでしょうか。また、そういう物理的なメリットだけではありません。番組を通じて視聴者がどんなことに興味を持っているかデータをとることで番組のクオリティアップにも貢献するでしょうし、ＴＶへの視聴態度がより能動的になりますから、番組やＣＭにとってもそれはよいことのはずです。

―ただ一方で、番組のコンテンツに関わることですので、権利関係には細心の留意が必要でしょう。

おっしゃるとおりです。正直、現在「勝手サービス」的に「放映ログ情報のようなもの」を流しているwebサイトもたくさん存在しており、憂慮すべき事態になっています。そういうサイトがこのまま増えていくと、放送と通信の信頼関係が危機的なことになっていくでしょう。私たちは、あくまで「情報の最終的な制御権は、放送局にある」ことを前提としたビジネスを考えています。だからこうして、『ＳＩ情報』*1という放送局から「公式に」配信される番組情報を取り扱っている御社（ＩＰＧ）に、様々なご意見やアドバイスをいただいているのです。

*1：SI とは、「Service Information」の略で、デジタル放送の番組を視聴するために必要な情報や EIT(Event Information Table) と呼ばれる番組タイトルや放送時間、番組出演者などで構成される。SI は逐次更新されるため、スポーツ中継の延長や緊急特番による放送時間の変更にもリアルタイムに近い形で対応が可能。

―なぜ、そのような「勝手サービス」が増えているのでしょうか。

インターネットビジネスの前提となっている考え方に問題があるのではないかと私は思っています。許認可ビジネスであるテレビ放送と違い、インターネットは「自由」なメディアであるため、ともすると「ユーザさえ集めてしまえば勝ちでしょう」という考え方の事業者が横行してしまいます。でも、それは根本的に間違った認識だと思います。「ユーザ獲得」のために他者の権利は侵害しても構わないという姿勢になってしまったら、インターネットは他メディアとのクロスメディア的な相乗効果は得られず、メディア単位の分断されたサービスをユーザに強いることになり、結果、利便性が提供できないというユーザ不在のメディアとなるのではないでしょうか。私たちは、微力ながらもそれを阻止するようなビジネスを展開していきたいと考えています。それ故に、御社のような考え方、ビジネスモデルを持った企業と良い関係を築いていきたいのです。

―本日は、お忙しいところ興味深い話をいただき、ありがとうございました。こちらこそ、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今月のGワード groovy word

放映ログ情報

テレビ番組の放送内容を採録・記録した番組内容に関するサマライズ・データ。
テレビ番組視聴者の問い合わせニーズを解決するための利用が注目されている。例えば、番組視聴中に、「今放送されたテロップをもう一度見たい」と思うことや、番組内容を放送後に再度確認したいという経験は多くの視聴者が持っているだろう。事実インターネットの検索エンジンでは30%相当がこのようなニーズに基づく検索結果という調査データもある。
このような放送後の問い合わせニーズに、『放映ログ情報』を活用することで、視聴者のニーズを簡便に解決できるだけでなく、番組への関心を高め、次回以降の番組視聴を掘り起こす効果などが見込まれている。
また、番組制作者にとっても、番組の中の関心ポイントを把握することにつながり、ピンポイントの番組宣伝や効果的な連動広告など、新しい番組関連サービスの提供が期待され、テレビ番組を基軸としたクロスメディア・コミュニケーションのきっかけとして発展する可能性がある。
さらには、『放映ログ情報』とインターネット上の関連サービスを紐付けることで、視聴者に利便性の高い放送と通信の連携サービスへの応用も考えられるなど、『放映ログ情報』を活用したサービスには多くの期待が寄せられている。
しかしながら、視聴者の利便性を確保するためには、公平性、正確性などの担保が必要であり、運用に関わる意見調整が待たれるサービス分野でもある。

G-PRESSは、G-GUIDE を提供する株式会社インタラクティブ・プログラム・ガイド(IPG)が制作・発行しています。

『Gガイド』は、Gemstar-TV Guide International, Inc.またはその関連会社の日本国内における登録商標です。
記載されている会社名、製品名は各社の商標、または登録商標です。

いちばん思い出に残っている テレビ番組 Vol.20

「ウゴウゴルーガ」

1992年から約１年半にわたって放映されていた『ウゴウゴルーガ』という番組。当時高校生だった僕は、「なぜ朝の忙しい時間にこんな番組が？」と思いつつ横目で見続けていた。キャラクターや、ショートコーナーの内容は、どれも新鮮で最高に面白く、くだらない内容の中にドキッとする社会風刺が隠されていたり、どの世代層がみても楽しめる、言い方をかえれば誰が見てもいい意味で違和感のある番組だった。“ゴーゴーガール”を逆さ読みした番組名、制作側の内輪ネタ…。またメディアアートのリアルタイムの実験場でもあった。制作側が本当に楽しんで創っている感じが新鮮なまま届いていた。『ウゴウゴルーガ』は、番組というよりむしろ作品なのかもしれない。今ならニュース番組しかやっていないような朝の慌しい時間枠で放映され、誰もが受け取ることのできるＴＶというメディアを通してそれに触れることができたのも貴重だったと思う。今、モノを創る側の立場にたって振り返ると、「子供番組にみせかけて大の大人が第一線のものを発表しようとしていた挑戦」とも受け取れる。この15年前の挑戦は、当時アートやデザインなんて言葉すら意識せずに見ていた僕にも、確実に根付いている。

株式会社日建設計　**飯島 敦義**

読書タイム　トロッコ〈二〉

芥川龍之介

その後十日余りたってから、良平は又たった一人、午過ぎの工事場に佇みながら、トロッコの来るのを眺めていた。すると土を積んだトロッコの外に、枕木を積んだトロッコが一輛、これは本線になる筈の、太い線路を登って来た。このトロッコを押しているのは、二人とも若い男だった。良平は彼等を見た時から、何だか親しみ易いような気がした。「この人たちならば叱られない」―彼はそう思いながら、トロッコの側へ駈けて行った。

「おじさん。押してやろうか？」

その中の一人、―縞のシャツを着ている男は、俯向きにトロッコを押したまま、思った通り快い返事をした。

「おお、押してくよう」

良平は二人の間にはいると、力一杯押し始めた。

「われは中中力があるな」

他の一人、―耳に巻煙草を挟んだ男も、こう良平を褒めてくれた。

その内に線路の勾配は、だんだん楽になり始めた。「もう押さなくとも好い」―良平は今にも云われるかと内心気がかりでならなかった。が、若い二人の土工は、前よりも腰を起したぎり、黙黙と車を押し続けていた。良平はとうとうこらえ切れずに、怯ず怯ずこんな事を尋ねて見た。

「何時までも押していて好い？」

「好いとも」

二人は同時に返事をした。良平は「優しい人たちだ」と思った。

五六町余り押し続けたら、線路はもう一度急勾配になった。其処には両側の蜜柑畑に、黄色い実がいくつも日を受けている。「登り路の方が好い、何時までも押させてくれるから」―良平はそんな事を考えながら、全身でトロッコを押すようにした。

蜜柑畑の間を登りつめると、急に線路は下りになった。縞のシャツを着ている男は、良平に「やい、乗れ」と云った。良平は直に飛び乗った。トロッコは三人が乗り移ると同時に、蜜柑畑のを煽りながら、ひた辷りに線路を走り出した。「押すよりも乗る方がずっと好い」―良平は羽織に風を孕ませながら、当り前の事を考えた。「行きに押す所が多ければ、帰りに又乗る所が多い」―そうもまた考えたりした。

竹藪のある所へ来ると、トロッコは静かに走るのを止めた。三人は又前のように、重いトロッコを押し始めた。竹藪は何時か雑木林になった。爪先上りの所所には、赤錆の線路も見えない程、落葉のたまっている場所もあった。その路をやっと登り切ったら、今度は高い崖の向うに、広広と薄ら寒い海が開けた。と同時に良平の頭には、余り遠く来過ぎた事が、急にはっきりと感じられた。

三人は又トロッコへ乗った。車は海を右にしながら、雑木の枝の下を走って行った。しかし良平はさっきのように、面白い気もちにはなれなかった。「もう帰ってくれれば好い」―彼はそうも念じて見た。が、行く所まで行きつかなければ、トロッコも彼等も帰れない事は、勿論彼にもわかり切っていた。

その次に車の止まったのは、切崩した山を背負っている、藁屋根の茶店の前だった。二人の土工はその店へはいると、乳呑児をおぶった上さんを相手に、悠悠と茶などを飲み始めた。良平は独りいらいらしながら、トロッコのまわりをまわって見た。トロッコには頑丈な車台の板に、跳ねかえった泥が乾いていた。

少時の後茶店を出て来しなに、巻煙草を耳に挟んだ男は、（その時はもう挟んでいなかったが）トロッコの側にいる良平に新聞紙に包んだ駄菓子をくれた。良平は冷淡に「難有う」と云った。が、直に冷淡にしては、相手にすまないと思い直した。彼はその冷淡さを取り繕うように、包み菓子の一つを口へ入れた。菓子には新聞紙にあったらしい、石油のがしみついていた。

三人はトロッコを押しながら緩い傾斜を登って行った。良平は車に手をかけていても、心は外の事を考えていた。

※〈三〉へ続く

Gモバ G-Guide Mobile 検索ワードランキング

Gガイドモバイル登録利用者数（2007年10月18日現在） 2,000 万人突破!

今月で３キャリア合計の登録利用者数が2000万人に到達した『Ｇガイドモバイル』ですが、まだ多くの人に知られていない「便利機能・サービス」がたくさんあります。そのひとつが「.TVメール」。登録したユーザにお気に入り番組情報をメールで配信するという＜無料＞サービスです。登録はカンタンで、「Ｇガイド番組表リモコン」アプリ上から「.TVメール」サービスへ入り、簡単な入力を行うだけ。登録したユーザには、当日の番組表データから、任意に設定可能なキーワード（２件まで）に関連した番組の検索結果、及びＧガイドサービスがお薦めする番組情報が毎日配信されます。メールの配信時間は、前日夜もしくは当日朝に設定することができるので、忙しい毎日でもお気に入りの番組や興味ある番組を見逃すことが少なくなります。

「.TVメール」 ※NTTドコモ携帯電話対象

- ユーザ登録のフリーワードにより抽出した番組のリスト
- 本日のオススメ番組紹介（1日6本、各系列1本ずつ:「トピックス」の内容）
- アプリ起動リンク付きメール

登録画面イメージ

メール本文イメージ

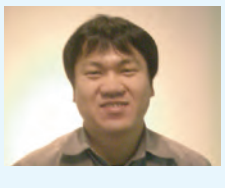
『Ｇモバ検索ワードランキング』

（2007年8月1日～8月31日調べ） from Gガイドモバイル

rank	keyword	score
1	チュートリアル	4155
2	関ジャニ∞	1270
3	次長課長	1058
4	らき☆すた	881
5	ＥＸＩＬＥ	819
6	ライフ	807
7	メジャー MAJOR	777
8	ワンピース	733
9	小栗旬	723
10	小島よしお	711
11	生田斗真	683
12	嵐	681
13	花ざかりの君たちへ ～イケメン♂パラダイス～	676
14	アニメ	664
15	堀北真希	629
16	ＫＡＴ－ＴＵＮ	581
17	ほんとにあった怖い話	580
18	上戸彩	547
19	中川翔子	507
20	ひぐらしのなく頃に解	473
21	北乃きい	468
22	新垣結衣	465
23	麒麟	449
24	ドラマ	445
25	榮倉奈々	432
26	千の風になって ドラマスペシャル	428
27	サッカー	393
28	DEATH NOTE デスノート	392
29	リア・ディゾン	388
30	東原亜希	375

I am iPG

運用管理ユニット／エンジニア　**多田　佳弘**



はじめまして、この度ＩＰＧに電撃入社いたしました多田と申します。
いままで放送設備に長年携わっていまして、デジタル化に伴い全国各地の放送局を渡り歩いていました。
今もＩＰＧとして、別の立場からまた各地を旅人のように飛び回っています。
ときには、出張先のホテルで目が覚めたとき、「えーと今日はどこにいるんだっけ…？」と考えてしまう時もありますが、行った先々の街や方言など心地よく感じ、結構楽しんでいます。
おかげ様で体力だけは自信がありますので、これからもヘコタレないでがんばります。よろしくお願いします。

G-PRESSは、G-GUIDE を提供する株式会社インタラクティブ・プログラム・ガイド(IPG)が制作・発行しています。
production : Japanissimo Inc.